

令和元年度 第3回図書館協議会

1 日時 令和2年2月21日(金)10:00~11:20

2 場所 飯田市立上郷図書館2階視聴覚室

3 出席者(委員) 有賀委員、今村委員、唐木委員、塩澤委員、竹内委員、中村委員、
長沼委員、福澤委員、矢澤委員、
(事務局) 瀧本館長、中平館長補佐、矢澤情報サービス係長、関口鼎図書館長、
宮下上郷図書館長

3 館長挨拶

4 会長挨拶

5 報告事項

(1) 令和元年度飯田市立図書館事業報告及び令和2年度事業計画案について

(2) 「学校での読みきかせ活動等に関する調査」の結果について

6 事務局からの事務連絡

・行事予定(ビジネス支援講座、地名講座)

7 会議内容

(1) 令和元年度飯田市立図書館事業報告及び令和2年度事業計画案について

○事務局 (資料2ページにより説明)

全域サービスへの取組について説明

- ・丸山分館では「風越山」、龍江分館では「今田人形」の見出しを設置してコーナーを設けた。
- ・分館のアピールポイントをまとめた利用案内を作成したこと。令和2年度はこの利用案内を用いて分館利用の周知を行う。
- ・分館も含め、どこでも返却できる仕組みについて検討に取り組んだこと。令和2年度は引き続き利用者にとって利用しやすい仕組みの検討を行う。

利用者を増やすサービスへの取組について説明

- ・図書館利用のきっかけとなるよう出張おはなし会の際に貸出を行った。
- ・行事や講座に参加した際に図書リストを配布したほか、本を展示、紹介して貸出を行った。
- ・令和2年度も講座等の参加者のニーズを踏まえ効果的なリスト配布や出張貸出を行う。

図書館を利用しにくい人たちへのサービスについて説明

- ・介護福祉施設が集まる会議に赴き録音図書利用について周知した。
- ・令和2年度は分館利用案内を用いて、分館を身近な図書館として周知していく。

障がい者サービスについて説明

- ・録音図書や大活字本が障がい者だけでなく、本を読むことに困難がある人や高齢者にも活用いただける

ことの周知に努めた。

- ・令和2年度も周知を継続する。

多文化サービスについて説明

- ・リクエストに基づき多言語資料の購入を行った。
- ・日本語学習教材、海外受賞作の絵本を購入した。
- ・令和2年度は学校や関連機関と連携し、ニーズに合った資料の購入を進める。また、英語多読学習資料の購入を進める。

資料の収集状況等について説明（資料3ページにより説明）

- ・児童書及び教育・保育など子どもに関する資料を上郷図書館に重点的に配置するなどの機能分担を踏まえた選書を行った。
- ・新学習指導要領に対応した選書を行った。
- ・大活字本などシニア世代を意識した資料の選書に努めている。
- ・令和2年度は引き続き、地域課題や社会情勢を意識した選書を行い、子どもに関する資料は上郷図書館を中心に機能分担を進める。

郷土資料の収集状況について説明

- ・時機を逸すると入手が困難になりがちな郷土資料、地元発行図書の収集に努めている。
- ・令和2年度も継続して郷土資料の収集に努める。

資料の整理と保存、保存スペースの確保について説明

- ・限られた所蔵スペースを有効に活用するため、大人向けは中央図書館、子ども向けは上郷図書館を中心に機能分担し効率的に整理・保存していく。

資料提供・情報提供の充実について説明

- ・貸出冊数が減少しているのは、昨年度に比べ開館日数が少ないためであると分析している。
- ・新規登録者数は減少傾向にあるが、乳幼児学級での利用案内により乳幼児の登録数は増加している。
- ・貸出利用者数、貸出冊数は中学生と70歳以上が伸びているが、高校生は減少している。
- ・貸出予約についてはWEB予約によるものが増えている。

予約・リクエスト・相互貸借及び複写サービスについて説明

- ・リクエストによる購入では、IOT関連やビジネス系英語の書籍が増えている。
- ・利用者の要望を引き出すことのできる窓口対応に努めていく。

本を探しやすい環境づくりについて説明

- ・利用者が求める本を探しやすいように図書の分類を細分化し、見出しを設置した。

所蔵資料紹介について説明

- ・新しい本との出会いを紹介できるよう工夫して展示を行っている。
- ・令和2年度にはオリンピックやパラリンピック、地域行事等を意識した展示を行う。

南信州図書館ネットワークについて説明

- ・探したい本がを見つけやすくなるようWebOPAC(インターネット蔵書検索画面)を更新した。
- ・次期システム更新に向けて南信州図書館ネットワーク参加自治体(松川町、高森町、豊丘村、喬木村)と会議を行った。
- ・令和2年度も次期システム更新に向けた検討を参加自治体とともに進める。

レファレンスの周知・活用促進について説明

- ・調査相談は多様化しており、効率的な情報提供を行うため国立国会図書館のレファレンス協同データベース活用を研究している。
- ・令和2年度はレファレンス協同データベースへの参加及び対応について検討を行う。

地域の課題解決に対する支援について説明 (資料7ページにより説明)

- ・これまで蔵書の充実を図ってきたビジネス関連書籍の利活用を進めることが課題と認識している。
- ・令和2年度は数多く発行されるビジネス関連書籍の選び方などを知ってもらう講座等を企画している。また、「AI」や「働き方改革」など、市民の関心が高い分野を選定し図書リストを作成、配布していく。

次世代育成のためのよむとすについて説明 (資料8ページにより説明)

- ・子どもの発達段階に応じた取組が必要であること、また図書館に足を向けてもらう取組が必要である。
- ・読書習慣が定着していない家庭の子どもにどうアプローチするかが課題であり、保育所等から家庭へ絵本を持ち帰る仕組みづくりに取り組む。保育所や学校と連携を図りつつ推進する必要がある。
- ・中高生による本の紹介の取組を行った。
- ・高校生に対しては探求学習のための資料提供を行った。
- ・中学生が選書を行う体験講座を開催し、本や図書館に関心を寄せてもらう取組を行った。
- ・学校図書館と共同で学年に応じた「読んでほしい図書リスト」の作成に取り組む。

子どもに関わる仕事や活動をする人たちへの支援について説明

- ・ボランティア育成のため読みきかせボランティア講座を開催した。

大人へのよむとすについて説明

- ・飯田下伊那読書会交流会を開催し、読書会の意義や取組の情報交換を行った。
- ・若い世代への情報提供を行うためFacebookを活用しており、閲覧者数は定着している。

読書活動を支える担い手の支援・育成について説明

- ・「声の本」制作のための録音図書製作ボランティア養成講座を開催した。

- ・令和2年度は、幅広い年代に向けた講座を行い市民と協働して取り組む。また、SNS以外にも本を読まない層に伝える機会を検討していく。

安全・快適に利用できる図書館づくりについて説明（資料10ページにより説明）

- ・施設劣化に伴う修繕の増加、予防保守ができにくいことが課題である。このために計画的な施設設備の修繕や更新が必要である。
- ・令和元年度は安全性確保における緊急度の高いものを中心に、修繕、工事、設備設置に取り組んだ。
- ・令和元年度に自主点検マニュアルを作成し、令和2年度からマニュアルに沿った自主点検を実施する。
- ・令和2年度は中央図書館及び上郷図書館の施設設備長寿命化計画を策定する。

第4次飯田市立図書館サービス計画の策定について説明

- ・令和2年度は、第4次図書館サービス計画の策定に取り組む。

会 長

ただ今の説明についてご意見、ご質問はあるか。

委員A

全く図書館を使わない人たちとどう関わっていくか、どう取り組むかが課題であり、その方法は本を読まない人、図書館を利用しない人たちの意見を取り込み考える必要がある。

委員B

高校生の読書離れについて、一度身に着けた読書習慣は、仮に思春期に本から離れたとしても成長して再び読書を始める場合が多い。高校生までに読書習慣を身に着ける種まきが必要である。

委員C

図書館の機能や取組を知らない人が多いのは課題である。図書館活動を知ってもらう必要があり、周知方法を検討されたい。

委員D

図書館からのお知らせについては「広報いいだ」の活用を検討されたい。若い世代への取組については、図書館側からも積極的にアプローチを積み重ねることが重要である。

事務局

昨年度の「広報いいだ」での図書館特集は反響が大きく、効果が認められた。PRについては今後も積極的に行うとともに、効果的なPRを検討する。

委員E

「広報いいだ」ばかりでなく、「図書館だより」の発行など、図書館独自の広報媒体を検討されたい。

委員A

新たに生み出した取組をどう市民に伝えていくか、浸透させていくかはSEO対策（検索エンジン最適化対策）の考え方が必要である。本のインターネット上での検索が図書館とリンクするような抜本的な取組が求められる。

委員F

本を読みたくても読めない高齢者が増えつつある。大活字本や声の本の周知方法を検討されたい。

事務局

- ・高齢者福祉施設への案内は継続して実施していく。
- ・本を読む人を育てることについては、「はじめまして絵本事業」に一定の成果があると認識している。その後の継続した読書体験に向けて、本が身近にある環境をつくるため、保育所等を通じて家庭に本を取り組む仕組みづくりに取り組む。
- ・本を読まない人たちへのアプローチについて、図書館が情報を得ることができ生活に役立つ場所であることを知ってもらうことが必要であると感じる。

委員H

読書習慣定着のための種をまく取組は必要であり、芸術分野ではあるが、創造館で行われている「若造展」のような若い世代が独自に運営するような取組を検討されたい。

委員I

- ・図書館には生活の役に立つ情報が多くあることを知ってもらう必要がある。
- ・図書館が子どもたちにとっての居場所として機能すべきである。
- ・多くの事業については効果をはかり、効果がうすいものは精査されたい。

委員J

- ・保存スペースの確保についてはエスバードを分館として活用することを検討されたい。
- ・保存スペースについては南信州・飯田産業センターを検討されたい。人寄りの点では条件が整っておりリユース本を展示するなどの工夫を検討されたい。また、南信州広域連合の施設であることから、周辺町村立図書館の蔵書を集約し活用する取組も検討されたい。デジタル化と併せ広域で利用しやすい環境整備について工夫されたい。

委員A

- ・開館時間の延長、夜間までの開館時間帯の工夫を検討されたい。

(2) 「学校での読みきかせ活動等に関する調査」結果について

○事務局 (資料11ページにより説明)

- ・学校での読みきかせの頻度及び取組方法についての調査を行った。
- ・調査結果から、ボランティアによる読みきかせの取組は市内小学校全校で行われていることが確認できた。中学校では読みきかせの代わりに全校読書等が行われ、読書週間などの取組により読書時間の確保がなされている。
- ・今後、学校で読む機会を得た児童が読書習慣の定着につなげていく方法について学校司書の先生と協力して取り組んでいく。

委員B

- ・読みきかせボランティアは「読みきかせ」だけで終わらないよう、本の紹介などを行っている。効果的に行うには学校司書の協力体制が必要である。
- ・読みきかせボランティアのメンバーが減少し課題となっている。
- ・読みきかせ活動の参考とするため、調査結果についてはボランティアメンバーに共有されたい。

委員J

- ・学校現場における読みきかせボランティアによる「読みきかせ活動」は、コミュニティスクールの一翼を担っており手厚く活動されている。
- ・「読みきかせ活動」は中学生にも良いものと思われる。中学生も興味をひく「語り」（話術・表現力）の世界がある。
- ・子どもたちのために読みきかせボランティアを増やす取組は大切と感じる。

会 長

以上で議事的一切を終了する。